

# A2-2

## 内部挿入型犠牲陽極材「パッチガード工法」 コンクリート内の鋼材腐食を抑制する技術

TKBS 株式会社東京興業貿易商会

橋梁等のコンクリート内に犠牲陽極材を設置し鉄筋等の腐食を抑制する技術

### パッチガード工法 (内部挿入型犠牲陽極材)

PatchGuard M・PatchGuard Plus・PatchGuard Ultra

パッチガード工法は、コンクリート構造物の断面管理箇所の水化防止、塩害・中性化による鉄筋腐食の抑制を目的として開発された、小型片状タイプの次世代型犠牲陽極工法です。

- 高品質コンクリート内部へ設置する際も、埋め戻し時の品質に悪影響を受けにくく、取付・取替が容易です。
- 埋め戻し時の養生により設置する際も、汚染・腐食を防止し、施工後のメンテナンスが不要です。
- 高品質の犠牲陽極材を使用することで、劣化防止効果が期待できます。
- 断面管理箇所が再び劣化するのを、マイクログラフィストが抑制できます。



【パッチガード工法の特長】

製品名	形状	寸法	重量	設置箇所
PatchGuard M	片状	100mm x 100mm x 10mm	約 100g	断面管理箇所
PatchGuard Plus	片状	150mm x 150mm x 10mm	約 225g	断面管理箇所
PatchGuard Ultra	片状	200mm x 200mm x 10mm	約 400g	断面管理箇所

製品仕様


株式会社東京興業貿易商会

### デュオガード工法 (ハイブリッド犠牲陽極工法)

DuoGuard 100・200・300・500・700・1000

デュオガード工法は、コンクリート構造物内に設置した犠牲陽極材に電流を流すことにより、電化犠牲陽極によって腐蝕された鋼材の不動態膜を再形成し、腐蝕を抑制することで、犠牲陽極材としての機能を発揮する工法です。従来の犠牲陽極工法との違いは、鉄筋断面の劣化を抑制し、ハイブリッド腐食抑制効果です。

- 鋼材の不動態膜を再形成することで、高い腐食抑制効果を得ることができます。
- 埋め戻し時の劣化を抑制することができます。
- コンクリート内部の劣化を抑制することで、劣化防止効果が期待できます。
- 設置後のメンテナンスが不要なので、長期コスト削減効果が期待できます。



【デュオガード工法の特長】

デュオガード工法の特長

株式会社東京興業貿易商会

### パッチガード工法 (内部挿入型犠牲陽極材)

コンクリート構造物の断面管理箇所の水化防止、塩害・中性化による鉄筋腐食の抑制を目的として開発された、小型片状タイプの次世代型犠牲陽極工法です。



株式会社東京興業貿易商会

### パッチガード工法 (内部挿入型犠牲陽極材)

コンクリート構造物の断面管理箇所の水化防止、塩害・中性化による鉄筋腐食の抑制を目的として開発された、小型片状タイプの次世代型犠牲陽極工法です。



株式会社東京興業貿易商会

### パッチガード工法実績

施設名：国道235号線 元静内橋  
 地先名：北海道  
 工期：2013年2月




株式会社東京興業貿易商会

